

2年生の皆さんへ

(2学年臨時休校中 学年便りNo.3)

3月3日より、学校が休校となり、通常の学校での生活の機会が失われてしまっ
はや2ヶ月半が過ぎました。

- ・教室で授業が受けられずに、家庭で自学をしなくてはいけなくなったこと。
- ・給食の時間の仲間との会話がなくなったこと。
- ・苦手な人もいるかもしれませんが歌声の取り組みや真面目さを具現できる掃除の
時間もなくなってしまいました。(この2ヶ月半で、自分の部屋を一生懸命に掃
除したり家を掃除したりて、家族に褒められた仲間もいるということを楽し
く思いました。)

これらのこと以上に、2年生になった皆さんの多くが、休校当初から一番がっかりと
してしまっただのが、「部活動ができなくなったこと。」ではないかと思ひます。1年生
の4月から2月までの約11ヶ月間に積み上げてきたことを、4月から新入生に教
える立場(頑張る姿で見せる・魅せる立場)に本来はなっていた頃です。学校が再開
されたら、「すてきな先輩」「カッコ良い先輩」としてぜひ活躍して欲しいと思ひます。
そこで今回は学年の先生方が中学校時代に何部に入り、どのようなことを学んだか
について紹介させてもらおうと思ひます。(A所属していた部活動、B思い出:学んでこ
と、良かったこと、悔しかったことなど。)

飯塚先生 A 器械体操部

B 上下関係が異常に厳しく、数十m先でも先輩の姿があれば、直立で視界から消
えるまで何度も挨拶していました。また、部長として後輩のために頭を下げたり、
ミーティングを繰り返したり、好きな部活動のために学校に通う日々でした。

海老原先生 A ソフトテニス部・駅伝部(夏～秋のみ我孫子市内の強豪校です。)

B 運動音痴や運動嫌いをそのままにしたくなかったのでやれそうな部活動に入り
ました。何とか続けられたという程度です。(すみません。暗いですね。)また、
駅伝部は「先生に走ってみろ!!」と言われて、それが嬉しくて練習していました。

千葉先生 A 剣道部

B 兄の影響で剣道を始めました。辛くきついことが多かったので、嫌々続けてい
た思い出があります。自分自身は、逃げ出すことが嫌だったので続けました。そ
れが今となっては、自信をつけることにつながっていたのだと思えるようになり
ました。さらに、続けることができたのは、多くの人に支えられていたからだ
ということに気づき、感謝の気持ちを持てるようになりました。人とのつながりを
大事にし、感謝の気持ちを持てたのも剣道に出会えたからだと思ひます。

野澤先生 A 剣道部

B 私も含めて初心者ばかりの部でしたが、皆、勝ちたい気持ちが強く互いに切磋
琢磨して稽古に励んでいました。1・2年の頃には負けてばかりでしたが、中3
の最後の大会で団体戦で3位に入り、県大会出場を果たしました。県大会では、
1回戦でボロ負けしてしまい、レベルの差を痛感しました。私が最後まで頑張
ることができたのは素敵な仲間がいたおかげだと思ひました。

遠藤先生 A 無所属 (地域のスイミングクラブ所属)

B 部活に入らずに、外部で水泳をやっていました。そのときは「部活動に入っ
ていれば良かったなあ…」と思うこともありましたが、今までの人生の中で一番
過酷なトレーニングをしたことは良い経験になっています。

山本先生 A 卓球部

B 一番の思い出は、長野県の代表として中部日本卓球選手権大会に参加できた
ことです。2年生の時には、出場できなかった念願の県大会に、3年生で出場す
ることができ、その時は、努力は報われると痛感しました。

須賀 A サッカー部・特設駅伝部(9～10月頃)

B 1年・2年とサッカー部で松戸市内の新人大会でベスト4以内に入り、県大会
へ出場できました。しかし、中学3年の夏の最後の大会で、部長としてチームを
まとめきれず、決勝リーグでたくさん負けてしまい悔しい思いで引退しました。

学年の先生方は、学級とは少し違う集団の部活動での体験でも、学び、成長するこ
とができたと言っています。また、遠藤先生のように部活動に入っていなくても外部の活
動で、自分自身を追い込み、心身ともに成長する経験を中学時代にできた人もいます。
感染症予防のために失われしまった学校での時間を(外部の習い事も含めて)取り戻す
ためにも、再開後は時間を大切に、諸活動に集中して取り組んでいきましょう。

(2学年 須賀)